

久御山中央公園「再整備基本計画」策定に向けた経緯・背景 及び 検討課題

■公園の沿革・現状

- (設置告示) 昭和53年4月1日
 (沿革) 昭和53年4月に野球場(9,807㎡)を開設。
 その後、テニスコート・修景施設(5,670㎡[S56.4])やゲートボール場ほか、各種施設を順次整備し現在に至る
 (面積) 27,062.5㎡(駐車場敷地を含む)
 (保有施設) 管理施設(管理棟、倉庫、照明灯、掲示板ほか) 遊戯施設(砂場、複合遊具など)
 休養施設(ベンチ、シェルター) 教養施設(イベント舞台)
 便益施設(水飲場、手洗場、便所、時計台、更衣室、駐車・駐輪場)
 修景施設(芝生広場、築山、植栽、花壇、生け垣、パーゴラ、藤棚ほか)
 運動施設(球技場、テニスコート、ゲートボール場、スケートパーク [仮設])
 (建築面積) 1058.2㎡(管理棟 [荒見苑]、便所2棟、シェルター、GB場上屋ほか) [敷地面積の3.9%]
 (運動施設面積) 12,401㎡(仮設スケートパークを除く) [敷地面積の45.8%]
 (植栽面積) 16,900㎡(芝生の敷設エリアを含む) [敷地面積の62.5%]

■公園再整備の背景

I) 久御山まちなにわ構想 [令和元年2月 (提案: 京都大学 山口准教授)]

久御山中央公園&クロスピアくみやまを活用し、「食」戦略に基づく住×農×工の交流を促すためのビジョン。『住-憩いと食が楽しめる魅力的な住環境づくり』×『農-農業を知り、学び、体験できる環境づくり』×『工-地産地食による健康な就業環境づくり』を行う拠点として、両施設をリニューアル。

(想定コンテンツ機能)

- ・農業の魅力を知り、学び・体験できるエディブルガーデン
- ・収穫野菜等を使ったランチ等メニューを提供する飲食施設やBBQ施設
- ・上記に係るワークショップや体験教室等の開催

II) 先導的官民連携支援事業 [令和元年度 国交省補助事業]

まちなにわ構想を官民連携で具現化するための社会実験実施、課題整理事業スキーム(案)の検討
 ・フードトラック実証実験 ・町内事業者(農・工)へのヒアリング など

III) “まちなにわ” (地域主体活動の社会実験) の実施 [令和元年度~]

地域住民が主体となって活動し、中央公園を活性化させる社会実験として“まちなにわ”を実施

地域主体組織
 “KUMIDAN” 発足
 まちなにわ開催
 2020年1月,2月
 2021年11月



食×農×工
 交流&体験

全世代・
 全員活躍

IV) 全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」構想~くみやまCCAC構想~ [令和2年3月]

全世代の住民が、「居場所」と「役割」を持ってつながり、交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要な医療・介護を受けることができ、若年層をはじめ、障害者など誰もが地域で働く場を確保し、子育て世代が安心して出産・子育てできる地域づくりを推進する久御山モデルの「地域共生社会」実現のための構想

(中央公園の役割)

- ・中央公園等を拠点にマルシェ開催やフードトラックによる移動販売を展開
- ・エディブルガーデンやカフェを開設
- ・誰もが憩いゆったりと過ごせ、子どもたちが自由に遊べる機能・施設を整備

■内水排除対策検討業務 [平成29年度 委託業務]

本町管理の河川・都市下水路等流域を排水解析した結果、1/10年確率の降雨時、市街化区域等において浸水被害(町内全域で53.21haのうち、荒見都市下水路流域は5.81ha)が発生することが判明

- (対策)
- ・調整池7カ所(総貯水量135,900㎥)整備 ⇒ 浸水面積が2.86haに縮減
 - ・佐山排水機のポンプ1台増設 ⇒ 整備中 [R3~5(予定)]
- (荒見都市下水路流域での対応)
 荒見都市下水路流域の浸水被害(5.81ha)を解消



防災

■課題

- ①開設から44年が経過し、遊具等の老朽化とともに利用されないエリアが散在
 ⇒運動施設(球技場、テニスコート等)の利用率は高いが、芝生・幼児広場の来園者は少なく、他エリアは利用者ほぼ無し
- ②球技場、テニスコートなど運動施設の利用率は高い。オリンピック・パラリンピックを機にスケートボードなどの新たなスポーツへの関心も高まっている。
- ③高低差があり、高木や生け垣で園内の見通しが悪い
- ④幼児・児童、若者、子育て世代から高齢者までのあらゆる世代、また、障害のある人もない人もが『憩え・楽しめ・交流できる公園』が求められている
- ⑤“まちなにわ(KUMIDAN主催)”による公園利用が始まっているが、園内でのイベント開催を想定した施設配置(設計)となっていない
- ⑥近年、都市公園など公共施設整備時の動向として、低炭素のまちづくりに繋がる取組みが求められている

インクルーシブ&バリアフリー
 地域主体活動・低炭素化

「再整備基本計画」の策定に向けた検討課題

☆幼児・児童から高齢者までの全世代、障害のある人もない人も、憩え・楽しめ・交流できる公園づくりの検討

⇒ヒアリングやアンケート調査を通じ、公園利用者、地域住民、まちなにわ主催KUMIDANなど多くの人から、再整備の要望・ニーズを把握し、再整備基本計画に反映(インクルーシブ遊具、カフェ、健康遊具、荒見苑の活かし方など)



☆人気・ニーズがあり注目が集まるスポーツ種目が楽しめる運動施設の検討
 ⇒球技場については、天然・人工芝~クレイまで幅広く検討

☆KUMIDANなど地域主体組織が主催する体験・交流活動が実施しやすい公園づくりの検討



☆公園グラウンド地下調整池(雨水貯留施設)整備とグラウンド利用の検討
 ⇒都市下水路流域の浸水被害を解消する防災機能に加え、公園敷地の雨水を貯留し植栽部等への散水等に循環利用できる都市公園施設機能を付与

